

柚木義和後援会ニュース

ゆのきよしかず

笠岡市政を語る会シリーズ③

ギャラクシーホールに溢れる ゲンキ！ 活気！ ゆのき！ の歓声

熱気の
820人の参加

2月4日の集い



超満員の会場

2月4日(土)午後1時30分から始まった柚木義和後援会主催の「笠岡市政を語る集い」には保健センターギャラクシーホール(450席)を溢れ出る超満員。実に820名の方々に参加いただきました。ロビー及び1階ホールそして、隣の老人福祉センター大広間のモニターテレビの前まで熱気に包まれました。開会は大正琴高月喜代会主・琴瑛会による「丘を越えて」の大合唱のオープニングに始まり、総合司会は新横島の西村輝子さんの名調子で加藤秀雄後援会長があいさつ。ご来賓には右欄の諸先生方が激励のメッセージで華を添えていただきました。

元気・活気を生み出すために働く場・歳入増の確保

主催者代表発言として、最後に登場した柚木の話は実に明快なものでした。「高木市長の優れた政治信条、信念、理念、安定的財政運営はキッチリと継承する中で、閉塞感を吹き飛ばす新しい改革の風を市役所に入れ、元気・活気・ヤル気を再生します。」を基調に市内南部・北部・西部・東部の元気を出す施策のために、税収や支援補助の確保、働く場の確保としての官民協力での企業誘致戦略室の設置など、わかりやすく解説。会場は笑顔の中にも同感の声と拍手で包まれました。

続いてのフォーラムは高木勇三氏をコーディネーターに元消防長の守屋博正氏が「防災、災害対策の充実の緊急性を」、地域で活躍する女性の立場から丸山和子氏が「地域と一体となったキメ細かな政策の必要性を」、老人クラブ会長の岡田安雄氏は「老人パワーで市政を拓いて生き生きとした笠岡づくりの提案を」、そして最後に学童保育ゆうゆうクラブの藤井八千代氏は、「子育ての体制の現状と悩みを」それぞれ切々と訴えられました。いずれの課題も今後の市政運営のキーワードとなるもので、貴重な参考意見でした。ありがとうございました。

出馬表明に至る経過

高木市長の12年間の功績・実績をきっちり継承し、さらに新たな息吹を起こそうとする決意の経過が語られました。12月13日午後6時40分頃、高木市長に市長引退後のことについてご相談申し上げたところ、高木市長の言葉は「本当に笠岡が好きで本気で笠岡のことを心の底から君が思っているならやるべきだ。もし、ほんのわずかでも邪心があるなら、やらない方がいい。君の本心と君自身が相談することだ。市長は忍耐と孤独だ。君自身の心に忠実にあれ。やるならすぐ手をあげろ」このように高木市長に背を押され、12月14日、何よりも大好きな笠岡のために「天に向かって恥じない」と決心した経過が詳細に語られました。



政治家としての顔

これまで自身の活動を一層頑張る負荷としてヒゲをトレードマークにして活躍していましたが、真の政治家としての心意気を内面ばかりでなく、みなさんに見える部分でもこれ以上無い形で示そうと会場でヒゲを剃り、政治家としての顔で登場しました。柚木義和はヒゲをとっても誰にもヒゲを取りません。

ご来賓の皆様

- ・自由民主党 衆議院議員 加藤勝信様
- ・岡山県議会議員 自由民主党 岡山県連幹事長 天野学様
- ・自由民主党 衆議院議員 加藤勝信様 秘書 難波達様
- ・自由民主党 衆議院議員 村田吉隆様代理 秘書 中山龍徳様
- ・民主党衆議院議員 花咲宏基様代理 秘書 萱野哲也様
- ・たちあがれ日本 参議院議員 片山虎之助様代理 秘書 日向豊様

民間力を市政に反映し、現場重視の「チーム笠岡」へ

- ・あらゆる補助金・交付金をチェックし北部・南部・東部・西部地域の特徴を活かしたゲンキづくりのために役立てる。
- ・地域へ出向き実情を理解し、現場を知る方々との対話の中から政策を作る。
- ・民間力・市民力に依拠して政策をつくる。
- ・全国に発信する笠岡の魅力の多さを地域と共に大胆に全国発信する。
- ・大干拓や島・海という笠岡らしさを強力にアピールする。

柚木義和後援会連絡所 笠岡市美の浜31-4(旧倉敷かさや横江出張所) TEL0865-67-7701 FAX0865-67-7703